

令和5年度 修士論文

「日本におけるエコミュージアムの構成要素の再検討 ―類似概念との比較を通じて―」

修士課程2年次 阿部麟太郎

要旨

フランスにおいて誕生した「エコミュージアム」の概念は、1980年代後半から90年代にかけて、日本への導入の動きが見られた。エコミュージアムは提唱者であるG.H.リヴィエールが「発展的定義」を定め多様な解釈、理念的枠組みそのものの継続的な更新を重視していたにもかかわらず、今日の我が国ではエコミュージアムの説明に、いまだに過去の枠組みが固定的に使用されている。

本研究はそれらの枠組みへの批判的視点から、日本におけるエコミュージアムの構成要素について再検討と整理を行うことを目的に、エコミュージアムおよびその類似概念とされる「郷土博物館」「地域博物館」「ジオパーク」について、理念的基盤を整理するための文献調査および実地調査を行った。その後、エコミュージアムの理念・活動が持つ要素を各類似概念と比較することにより、相対的に「現時点において、日本における地域活動を『エコミュージアムたらしめる要素』とは何か」をまとめた。

調査の結果、現時点で日本エコミュージアムを構成する要素を「文化的領域に基づく柔軟な地域基盤」「地域遺産の保存と活用および地域の課題解決という目的」「ミュージアム活動の住民自治」「地域住民主導による主体・分野の協働」「2つの批判的思考」「発展性・柔軟性」の6点に整理した。